

今月の奉職履歴

明治38年11月13日 補千歳航海長
 明治38年(1905) 11月4日に八幡丸を降りた28歳の静雄は、その9日後に千歳の航海長へと任命されます。この年の4月9日、静雄は田尻愛子と最初の結婚をしたのでした。

松岡静雄を語るモノたち

③『書簡(1)』



日露戦争の前年となる明治36年(1903)2月2日付の書簡です。当館に所蔵している静雄から國男へ宛てた手紙の中で、最も古いものです。「兄上様」國男へ向けて、洋書『Text-book of science Element of marine design』の在庫を、國男が丸善(書店)へ行ったときに確認し、下巻の機械学はいらないので上巻だけほしいというお願いや、大演習の前で忙しく、読書などの暇がないので「愛子君」からもらった手紙のこと、「愛子君」からもらった手紙は、字も文章もなかなか上手で感心したことなどが書かれています。「愛子君」こと旧名田尻愛子は、大蔵総務長官や東京市長(当時)を歴任した子爵田尻稻次郎の次女で、この手紙の2年後、静雄の妻となる女性です。



福崎町立
 柳田國男・松岡家記念館
 〒679-2204
 神崎郡福崎町西田原
 1038の12
 電話：0790-22-1000

▷福崎町子どもふるさと展◁

記念館では今年も、第5回柳田國男ふるさと賞へ寄せられた優秀作品71点を展示しています。小・中学生の力作を、ぜひご覧ください。
 会期：11月26日(日)まで開催
 場所：柳田國男・松岡家記念館2階 会議室

伊勢大神楽 巡業公演

国指定重要無形文化財の伊勢大神楽が今年も福崎へやってきます。獅子が無い、数々の曲芸が披露されます。1年に1度の機会ですので、ぜひお越しください。
 日時：11月11日(土) 13:30~
 場所：柳田國男・松岡家記念館前広場



柳田國男・松岡家記念館

☆☆入館案内☆☆
 ☆開館時間
 9時~16時30分
 (入館は16時まで)
 ☆休館日
 月曜日、祝日の翌日
 12月28日~1月4日
 ☆入館料
 無料

名作著書紹介
故郷七十年を 読む
 辻川を流れる堰溝を南へ下った森の西所には、かつて松岡家の田圃だった土地がありました。柳田國男は帰郷のたびにその森へも訪れていました。その森には、稲荷の祠があり、「その森へのなつかしみが、稲荷信仰や、狐の研究に心を寄せるようになったものであった」と記しています。晩年の住まいだった東京成城でも、國男は狐の不思議な話を聞いています。ある晩、一人の大工さんが近くの稲荷さんのほとりに通っていると、狐が踊っていて、そればかりか「あいつ、今夜は遅いな」と語り合っていたそうです。やがてやってきたのは、なんとその大工さんの飼った猫で、「今夜はお粥が熱くて…」と言いつつ、お粥を炊いて食べる行事の日だったのだとか……。



伏見裕子さん(右)と高寄教育長

10月14日(土) 佛教大学で開催された日本民俗学会第69回年会において、研究奨励賞表彰式が執り行われ、福崎町賞・金10万円を贈りました。なお、受賞論文は柳田國男記念館などで閲覧できます。

館日記
 日本民俗学会奨励賞
 福崎町では、日本民俗学会の研究奨励賞に副賞を贈っています。この賞は35歳未満の次世代の民俗学を担う若手研究者へ授与されるものです。今年、伏見裕子さん(大阪府立大学工業高等専門学校 総合工学システム学科 講師)の著書『近代日本における出産と産屋』香川県伊吹島の「産屋」の存続と閉鎖が受賞されました。